

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400317		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームとみおか 1Fせせらぎ		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	平成27年11月16日	評価結果市町村受理日	平成27年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道より奥まった清楚な住宅街の一角に位置しており、ホーム周辺では近隣の子供たちの笑い声が聞こえる環境の中、入居者様も穏やかに過ごされています。
ホーム内においては、人とのふれあいを大切にしながら入居者さまの思いを尊重した生活が出来るよう支援いたしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0190400317-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR稲積公園駅から徒歩圏で、バス停も近く交通の便が良い住宅街に位置するグループホームである。建物は全体が広くてバリアフリーであり、共用空間は広くて開放的で、キッチンから全体が見渡せる。壁には季節の装飾や利用者の写真が飾られ、趣味の本や新聞、カラオケ機器なども用意されている。広いトイレが各ユニットに4か所あり、浴室は窓があつて明るく、床暖房や加湿器で温度、湿度が調整されている。職員の理念に対する理解度が高く、地域密着の意義を踏まえた3項目の事業所独自の基本理念を良く理解して実践につなげている。毎月のカンファレンスでも理念について触れている。地域交流では、職員が事業所周辺の草むしりを行っている、近所の方が声かけしてくれて一緒に草取りを行う等自然な流れの中で交流が深まっている。初夏に駐車場で開催するジンギスカンパーティにも近所の方々の参加を得ている。小学生が中心になったよさこいチームが事業所内で踊りを披露してくれることもある。利用者一人ひとりの思いや意向を尊重し、法人研修や内部研修で接遇教育が定期的に行われている。職員は利用者へ優しく呼びかけ、利用者は毎日の生活をゆったりと楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を互いに共有できるよう玄関壁面に理念を掲げて、職員や来訪者の方々にも目に触れるようにしながら、実務に反映できるよう努めている。	地域密着の意義を踏まえた「地域社会の中で人と人とのふれあいを大切にします」を含めた3項目の事業所独自の基本理念を玄関と各ユニットに掲げている。毎月のカンファレンスでも理念について触れている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事への参加、事業所周辺の草刈りや近隣との馴染みの関係もあり、地域とのつながりを大切にしている。	町内会に入会し、運営推進会議には町内会役員の参加を得ている。事業所周辺の草むしりの際は、近所の方の声かけや参加があり、自然な流れの中で交流が深まっている。また、小学生が中心になったよさこいチームが事業所内で踊りを披露してくれることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事参加時に、認知症に対する理解や症状など、地域の方々にも支援方法などを伝達・相談する機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に会議を開催しており、地域・ご家族様との意見や情報の交換を行い、その後のサービスの向上に活かすことが出来ている。	運営推進会議は、町内会長、地域包括支援センター職員、家族等が参加して行われているが、議事録は箇条書きで具体的な内容記載は少なく、参加メンバーのみの配布である。年間テーマも特に設定していない。	議事録は、参加者の意見等を具体的に記載するなど、内容を理解してもらえよう工夫し、全家族宛に送付することを期待したい。また、年間テーマを設定して参加できない家族にも会議への関心を高める工夫も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の担当者と業務を通じ情報交換に努め入居者様と直接関係のある社会福祉協議会の担当者との交流、情報交換をしながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	今年度は、7月に管理者の交代があり、重ねて職員の休職等も重なったことから、市との連携や連絡も密にとれなかったが、現在は体制が整ってきたので、管理者会議の出席や市の担当者を訪問する予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修や内部研修を通じて職員の理解を高める取組みを行っている。職員間において認識不足から不適切なケアに至ることのないよう互いに確認しあいながら取り組んでいる。	身体拘束に関する法人の研修や内部の研修を各年1回以上行っている。また、「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を事務所の壁に掲げて職員の理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や内部研修において職員の理解を高める取組みを行うよう努めている。また、日々の業務の中においても見過ごすことの無いよう注意を払い、防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後成年後見制度の対象となる入居者様がおられるため、関係機関と協力し活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、不安や疑問点について理解・納得が頂けた上で契約頂けるよう十分な説明を行い取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には職員より声掛けをおこなうよう心掛け、話しやすい雰囲気作りに努め、運営に反映できるよう努めている。	家族の訪問が多く、管理者やリーダー、担当の職員が対応して意見を聞き、「御家族様連絡帳」で全職員が共有している。管理者交代のため一時中断していた「とみおか便り」は再開を検討中である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務を通じて個人面談を実施する機会を常に設けている。職員間が話しやすいような環境作りにも努めている。	毎月のカンファレンスでは、職員が活発に意見交換し、各種の記録様式等にも職員の意見を反映させている。また、管理者が頻繁に個人面談を行い、法人本部も毎年1回個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の向上を図れるよう日々働きかけ、積極的に取り組みを行っている。法人においても、勤務年数や資格に応じて職員がやりがいの持てるような条件の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において、勤務年数対象に定期的に研修会を開催、それ以外にも事業所ごとにケアの向上に必要な外部研修の受講する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内の管理者研修、法人内の研修会を通じて交流を深めることで、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、ご本人・ご家族様と面談をし、ホームでの生活にあたり、安心して暮らせるようご本人にとってどのような支援が必要か十分に思いを汲み取り、安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用始めの段階にて、ご家族様より不安や要望を聞き取りを行い、その後の面会時にも常にご家族様の思いを汲み取れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・ご家族様より必要としていることを聞き取り、優先順位を共に考えながら支援に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人を尊重したケアを実施しながら、時間をかけて信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後もご家族様には、共に支援に携わって御本人を支えていく姿勢を忘れず、家族間との関係を深めていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々とのつながりを途切れることなく、手紙や電話のやりとりの支援体制や来訪時にも継続して関係を継続して頂けるよう声掛けをさせていただいております。	3名の利用者に古くからの知人・友人の訪問があり、お茶を提供して居室でゆっくり話をしてもらっている。家族の協力で馴染みの美容院に行ったり、外食や法事、お墓参りに行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を見極めながら各ユニットごとの交流も深めつつ、互いに支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も関係性が途切れるのではなく、必要に応じて相談には随時対応しながら良好な関係を継続できるよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からお本人の思いや希望を汲み取るよう心掛けており、状態により困難な場合は、日頃の行動や表情から真意を汲み取るよう努めている。	利用開始時にアセスメントシートに利用者の生活歴等の情報を収集し、利用者の思いや意向の把握に努めているが、記載方法や更新時のルールは定まっていない。		アセスメントシートの記載方法や更新のルールを定めることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・ご家族様より以前の生活歴や生活環境情報を聞き取り、職員全員が現在のケアに活かせるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりより、状況に応じて小まめに記録に落とし、必要であれば再アセスメントを行いながら現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われているユニット会議において、職員全員から意見を集め検討を行っている。来訪時にはご家族を通じてご本人の気持ち、思いなど互いに情報共有を行いながら現状に即した介護計画が作成できるよう努めている。	介護計画は利用開始時に作成し、その後は1週間、1か月、3か月で更新している。日々の介護記録は介護計画を意識して記載している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、介護記録から職員全員で情報共有を行い、小さな事柄でもすぐに実践できるよう取り組んでいる。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の状態に合わせて、散歩や買い物に出かけたり、状況により個別対応を行うなど出来る限り柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺の草刈りは町内会の役員の協力を得ながら行われている。近隣の方々との交流もあり豊かな暮らしに繋がっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に往診医に健康管理をおこなって頂いているが、状態に応じて専門医の受診対応を行い適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医療機関の医師が毎月2回往診し、全利用者が受診しているが、従来のかかりつけ医と併診している方もいる。通院は基本は家族対応だが、殆どの方を業所で送迎している。「薬情報」「定期医療連携・健康管理記録」「病院受診記録」を全職員が共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に協力を頂き、時には相談や的確なアドバイスをもらいながら実践し、入居者様の健康に気を配るよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が主となり病院関係者と情報交換、相談を行いながら、早期退院に向け調整を行っている。入院中の状態を把握し、退院後も安心して生活出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が見込まれる場合には、早い段階でご家族様との話し合いの場を持ち、ご本人ご家族様の意向を踏まえながら今後の介護方針の情報共有に努めている。	利用開始時に「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」を本人・家族に説明し、署名捺印を得ている。重度化した場合は、医師を交えて相談し、対応する医療機関を決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時に備え定期的に対応の訓練を行い、職員同士いつ何が起きても冷静に対処できるよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。訓練時には消防署の職員より適切な指導、助言を頂き近隣の方々にも日頃より協力の依頼を行っている。	避難訓練は、4月に昼間対応の自主訓練を行い、12月には夜間対応訓練を消防署の協力の元で実施予定であるが、日時を運営推進会議と合わせ、家族参加の機会を設ける計画である。災害時の備蓄品準備と職員の定期的な救急救命訓練は今後の課題である。	災害時の備蓄品の準備と定期的な職員の救急救命訓練の受講を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりを大切にしながら、個々のプライバシーを十分に配慮できるよう常に心掛け支援を行っております。	利用者の呼びかけは苗字か名前に「さん」づけとし、法人研修や内部研修で接遇を学んでいる。個人ファイルは事務所で安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人も思いや汲み取りながら、可能な限り対応できるよう職員間で検討し合いながら積極的に関わるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活ペースはおおむね決まっているがその中でも個々の状態や御本人の生活リズムに配慮しながら生活いただけるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を尊重しつつ、日頃の整容にも配慮しながら個人に合わせた支援を行っている		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、役割をもってもらいながら準備や後片付けをお手伝い頂いている。食事の味付けにも配慮し、食器や盛り付けも工夫しながら食事をお楽しみいただけるよう努めています。	法人の献立を基本に、誕生日にはオムライスなど利用者の希望するものに変えている。下ごしらえや食器洗い、食器拭きなどを利用者が手伝っている。年に2～3回、出張の握り寿司を呼んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士監修のもと、バランスのとれたものを提供しており、水分確保についても1日必要な水分量をひとり一人にあわせたものを個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後ご本人の力に応じて支援を行い、訪問歯科医の協力を得ながら口腔状態を保てるようケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握しながら、可能な限りトイレでの排泄、自立に向けた支援を行っている。	排尿・排便チェック表にてパターンを把握して、羞恥心や個々の状態に配慮した声かけをしている。全員トイレでの排泄を基本としているが、夜間の睡眠状況によりベッドで介助する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンや日々の水分摂取量と照らし合わせながら声かけ・誘導を行っている訪問診療医との相談により下剤の調整を行う場合もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状況の変化にも対応しつつ、個々に合わせてゆっくりと入浴をお楽しみ頂けるよう時間の配慮を行いながら支援をしている。	毎日入浴が可能で、午後の時間を中心に各利用者が週2回程度入浴している。現在は入浴を拒否する方はいない。入浴剤を使用したり、湯加減を調整して快適に入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の習慣や状況に応じて、休息がとれるような環境を整え、夜間帯に安眠が出来るよう日中帯の活動等に配慮しながら個々に合わせたケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を職員間で常に把握しながら服薬方法の工夫など検討し誤薬を防ぐよう様々な手段を講じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴や状態を基に職員間で話し合いながら個々のニーズに合わせて役割分担や気分転換に繋げられるよう努めている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fせせらぎ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに変化に対応しながら、散歩や個別の外出支援を行っている。可能な限りご家族様にご協力をお願いしながら外出できるよう支援している。	日常的に事業所の周辺や近くの公園に散歩に出掛けたり、玄関先や2階のベランダで外気浴をしている。月1回程度通院する利用者もあり、個別の買い物に出かけることもある。年間行事では花見や買い物ツアーを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を所持はしておらず、事業所にて金銭の取り扱いを行っている。ご家族様との外出時には御本人が管理をしながらお使いいただけるよう配慮頂くことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に、外部とのやりとりは希望に添って対応している。入居者様によってはご自分の使用電話を所持し、必要時にお渡しするよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにあるリビングは、すべてが見渡すことができ、どの居室からも行き来しやすく同じ空間にあるカウンターキッチンも、利用者さまからも見ることが出来、生活音を直に感じられるようになっております。	共用空間は広く開放的で、キッチンから全体が見渡せる。壁には季節の装飾や利用者の写真が飾られ、趣味の本や新聞、カラオケ機器なども用意されている。広いトイレが各ユニットに4か所あり、浴室は窓があって明るい。床暖房や加湿器で温度、湿度が調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ワンフロアに食堂と居間のスペースを設けている。個々の身体状況にあわせて居場所を設ける工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より馴染みの家具を取り入れ、安心して御暮らしいただけるよう支援している。状態の変化に伴い家具の配置など、ご本人ご家族様と相談しながらとりおこなう事もある。	居室には利用者が自由にテレビやたんす、家族の写真、折り紙作品など馴染みのものを持ち込んでいる。壁にはカレンダーや刺繍の飾り物などを自由に飾り付けしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住居入口より、すべての居室が見渡せる環境にあり、職員の目の行き届いたケアが行えトイレ内も車椅子の介助も余裕のもてるスペースを確保しており、安心して暮らせる環境下にある。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190400317		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームとみおか 2Fそよかぜ		
所在地	札幌市手稲区富丘2条4丁目11-15		
自己評価作成日	平成27年11月16日	評価結果市町村受理日	平成27年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道より奥まった清楚な住宅街の一角に位置しており、ホーム周辺では近隣の子供たちの笑い声が聞こえる環境の中、入居者様も穏やかに過ごされています。
ホーム内においては、人とのふれあいを大切にしながら入居者さまの思いを尊重した生活が出来るよう支援いたしております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0190400317-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を互いに共有できるよう玄関壁面に理念を掲げて、職員や来訪者の方々にも目に触れるようにしながら、実務に反映できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事への参加、事業所周辺の草刈りや近隣との馴染みの関係もあり、地域とのつながりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事参加時に、認知症に対する理解や症状など、地域の方々にも支援方法などを伝達・相談する機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に会議を開催しており、地域・ご家族様との意見や情報の交換を行い、その後のサービスの向上に活かすことが出来ている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の担当者と業務を通じ情報交換に努め入居者様と直接関係のある社会福祉協議会の担当者との交流、情報交換をしながら協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修や内部研修を通じて職員の理解を高める取組みを行っている。職員間において認識不足から不適切なケアに至ることのないよう互いに確認しあいながら取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や内部研修において職員の理解を高める取組みを行うよう努めている。また、日々の業務の中においても見過ごすことの無いよう注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後成年後見制度の対象となる入居者様がおられるため、関係機関と協力し活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、不安や疑問点について理解・納得が頂けた上で契約頂けるよう十分な説明を行い取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には職員より声掛けをおこなうよう心掛け、話しやすい雰囲気作りに努め、運営に反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務を通じて個人面談を実施する機会を常に設けている。職員間が話しやすいような環境作りにも努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の向上を図れるよう日々働きかけ、積極的に取り組みを行っている。法人においても、勤務年数や資格に応じて職員がやりがいの持てるような条件の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において、勤務年数対象に定期的に研修会を開催、それ以外にも事業所ごとにケアの向上に必要な外部研修の受講する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内の管理者研修、法人内の研修会を通じて交流を深めることで、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、ご本人・ご家族様と面談をし、ホームでの生活にあたり、安心して暮らせるようご本人にとってどのような支援が必要か十分に思いを汲み取り、安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用始めの段階にて、ご家族様より不安や要望を聞き取りを行い、その後の面会時にも常にご家族様の思いを汲み取れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・ご家族様より必要としていることを聞き取り、優先順位を共に考えながら支援に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人を尊重したケアを実施しながら、時間をかけて信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後もご家族様には、共に支援に携わって御本人を支えていく姿勢を忘れずに、家族間との関係を深めていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々とのつながりを途切れることなく、手紙や電話のやりとりの支援体制や来訪時にも継続して関係を継続して頂けるよう声掛けをさせていただいております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を見極めながら各ユニットごとの交流も深めつつ、互いに支え合えるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も関係性が途切れるのではなく、必要に応じて相談には随時対応しながら良好な関係を継続できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からお本人の思いや希望を汲み取るよう心掛けており、状態により困難な場合は、日頃の行動や表情から真意を汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・ご家族様より以前の生活歴や生活環境情報を聞き取り、職員全員が現在のケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりより、状況に応じて小まめに記録に落とし、必要であれば再アセスメントを行いながら現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われているユニット会議において、職員全員から意見を集め検討を行っている。来訪時にはご家族を通じてご本人の気持ち、思いなど互いに情報共有を行いながら現状に即した介護計画が作成できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、介護記録から職員全員で情報共有を行い、小さな事柄でもすぐに実践できるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の状態に合わせて、散歩や買い物に出かけたり、状況により個別対応を行うなど出来る限り柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺の草刈りは町内会の役員の協力を得ながら行われている。近隣の方々との交流もあり豊かな暮らしに繋がっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	基本的に往診医に健康管理をおこなって頂いているが、状態に応じて専門医の受診対応を行い適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に協力を頂き、時には相談や的確なアドバイスをもらいながら実践し、入居者様の健康に気を配るよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が主となり病院関係者と情報交換、相談を行いながら、早期退院に向け調整を行っている。入院中の状態を把握し、退院後も安心して生活出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が見込まれる場合には、早い段階でご家族様との話し合いの場を持ち、ご本人ご家族様の意向を踏まえながら今後の介護方針の情報共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時に備え定期的に対応の訓練を行い、職員同士いつ何が起きても冷静に対処できるよう備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。訓練時には消防署の職員より適切な指導、助言を頂き近隣の方々にも日頃より協力の依頼を行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりを大切にしながら、個々のプライバシーを十分に配慮できるよう常に心掛け支援を行っております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人も思いや汲み取りながら、可能な限り対応できるよう職員間で検討し合いながら積極的に関わるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活ペースはおおむね決まっているがその中でも個々の状態や御本人の生活リズムに配慮しながら生活いただけるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の個性を尊重しつつ、日頃の整容にも配慮しながら個人に合わせた支援を行っている		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、役割をもってもらいながら準備や後片付けをお手伝い頂いている。食事の味付けにも配慮し、食器や盛り付けも工夫しながら食事をお楽しみいただけるよう努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士監修のもと、バランスのとれたものを提供しており、水分確保についても1日必要な水分量をひとり一人にあわせたものを個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後ご本人の力に応じて支援を行い、訪問歯科医の協力を得ながら口腔状態を保てるようケアしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握しながら、可能な限りトイレでの排泄、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンや日々の水分摂取量と照らし合わせながら声かけ・誘導を行っている訪問診療医との相談により下剤の調整を行う場合もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状況の変化にも対応しつつ、個々に合わせてゆっくりと入浴をお楽しみ頂けるよう時間の配慮を行いながら支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の習慣や状況に応じて、休息がとれるような環境を整え、夜間帯に安眠が出来るよう日中帯の活動等に配慮しながら個々に合わせたケアを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を職員間で常に把握しながら服薬方法の工夫など検討し誤薬を防ぐよう様々な手段を講じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴や状態を基に職員間で話し合いながら個々のニーズに合わせて役割分担や気分転換に繋げられるよう努めている。		

ふれあいの里 グループホーム とみおか

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに変化に対応しながら、散歩や個別の外出支援を行っている。可能な限りご家族様にご協力をいただきながら外出できるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様がお金を所持はしておらず、事業所にて金銭の取り扱いを行っている。ご家族様との外出時には御本人が管理をしながらお使いいただけるよう配慮頂くことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に、外部とのやりとりは希望に添って対応している。入居者様によってはご自分の使用電話を所持し、必要時にお渡しするよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにあるリビングは、すべてが見渡すことができ、どの居室からも行き来しやすく同じ空間にあるカウンターキッチンも、利用者さまからも見ることが出来、生活音を直に感じられるようになっております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ワンフロアに食堂と居間のスペースを設けている。個々の身体状況にあわせて居場所を設ける工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より馴染みの家具を取り入れ、安心して御暮らしいただけるよう支援している。状態の変化に伴い家具の配置など、ご本人ご家族様と相談しながらとりおこなう事もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住居入口より、すべての居室が見渡せる環境にあり、職員の目の行き届いたケアが行えトイレ内も車椅子の介助も余裕のもてるスペースを確保しており、安心して暮らせる環境下にある。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームとみおか

作成日：平成 27年 12月 5日

市町村受理日：平成 27年 12月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時における事業所内の備蓄品の整備と救命救急訓練を全職員が受講できていない。	備蓄品に関しては、法人より、整備、用意が来ている。救命救急訓練に関しては、全職員を対象に期間を定めて受講できるように日程を調整していく。	救命救急の研修日程等を調べ、日程を調整する。	6か月
2	23	アセスメントシートの記載方法や更新時のルールが定まっていない。	アセスメントシートの記載方法や更新のルールを定める。	アセスメントシートの記載時に御本人に変化等が見られた場合は、書き足しをしていたが、変化を解り易くする為に字の色を変え、書いた日付けを書くようにし、更新は期間を決めて、1・2F共に統一する。	3か月
3	4	運営推進会議の議事録が箇条書きで具体的な内容記載が少なく、参加メンバーのみの配布で年間テーマが設定されていない。	出席者の意見を詳細に記載し、議事録を全家族に送付、年間を通してのテーマを設定し議事録の充実に取り組む。	年間のテーマを設定しつつも、開催時期の季節ごとに関心が高まるテーマ(インフルエンザ等)を入れる等の工夫をし、御家族の発言を具体的に記載する。その議事録を全家族に送付し、参加できない御家族にも内容を理解してもらえるよう議事録の充実に努める。	3か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。